32　ヨハネ 10 章 22-30 節

1、「内容観察」この個所を自分の言葉で表現してみましょう。どんなことが記されてありますか？

2、（32)「そのころ、エルサレムで宮きよめの祭りがあった。時は冬であった。」とあります。

このきよめの祭は、紀元前２世紀から行われていた祭りで、ユダヤの三大祭りのひとつです。紀元前２世紀当時、シリアにイスラエルは支配されていました。そしてシリアによって激しい宗教弾圧が行われました。神殿で律法に従った祭儀を行うことが禁じられ、ゼウスの偶像が神殿に置かれました。また律法で汚れているとされている豚を神殿に捧げるように強制されました。それに反対する者は容赦なく処刑されました。そこでユダ・マカバイという人が立ち上がり、シリアに反旗を翻し、民族の独立を勝ち取りました。そして異教によって汚された神殿を清めたことが、このきよめの祭の起源でした。ですからこの祭りの時、いやがおうでも、民族意識は高揚しました。主イエスの時代は、イスラエルはローマに支配されていましたから、この祭りの間は国が解放されるようにという解放への願いが高まっていました。**(これが後のユダヤ人たちの質問のきっかけになっています)**

そして「冬であった」と書かれています。その祭りは冬に行われたのです（現在ハヌカの祭りで光の祭りと言われています。現在のイルミネーションをイメージするものです)。日本をはじめキリスト教国ではない国でも、冬の季節にクリスマスを祝うようになった背景にこの祭りの影響があると言われています。実際、クリスマスが 12 月になったのは、キリストが 12 月にお生まれになったからというのではなく、もともとローマではこの時期に太陽神の祭りをしていたからです。ローマの国教がキリスト教になったとき、この太陽神の祭りがキリストの降誕を祝うという名目に入れ替わり、それにハヌカの光のイルミネーションが加わったったというのがクリスマスの起源だといえます。

3、（24）上記のことから、このユダヤ人たちの抱いていた「キリスト」像とはどのようなものだったと思われますか？

・それに対してイエス様の返答はどのようなものでしょうか？

（25）

（26、27）

※ここで１節から語られていた羊と羊飼いの話題に入ってきます。ユダヤ人たちはイエス様から「あなた方が私の羊の群れに属していないからです」といわれました。「自分はイエス様を信じます」と宣言しましょう。

私たちは往々にして羊飼いの声を聞き分ける羊ではなく、羊飼いに問いただし、自分に従わせようとする羊です。なぜ私たちは主イエスの言葉を聞き分ける羊ではないのでしょうか？それは私たちが強いからです。自分をかよわい羊、迷える羊とは思っていないからです。羊は羊飼いなしでは生きられない動物です。自分の命をすべて羊飼いに委ねているのが羊飼いの羊です。だから羊飼いの羊は羊飼いの声を聞き分けるのです。聞き分けることが、自分の命にかかわることだからです。しかし、私たちは自分の力で生きていけると思っています。神様は、せいぜいちょっと困ったときだけ助けてくれればいい、そう考えてしまいがちです。ですから羊飼いである主イエスの言葉が聞き分けられないのです。

4、イエス様は二つの大切な真理を語られました。

・(28)

・(30)

5、今日の箇所を通して、神様はどのようなお方でしょう。またどんな約束、模範がある?またどんな注意、戒めがある?